

お手入れ方法

使用後は、必ずその日のうちにお手入れしてください。
お手入れするときは、やわらかいスポンジでおこなってください。
※本体はステンレス鋼を使用していますが、塩分や食物、油分などの付着によりサビる場合があります。

本体(外側・内側)のお手入れ

ぬるま湯で薄めた食器用洗剤を柔らかいスポンジ・フキンに含ませて洗った後、水洗いしてください。
水分を拭き取り、十分に乾燥させてください。
※本体内側の汚れが落ちない場合には、酸素系漂白剤をご使用ください。(濃度5%、時間30分が目安)
その際、ふたキャップ・中栓を閉めずにおこなってください。

ふたキャップ・中栓・圧抜き栓

ふたキャップ・中栓・圧抜き栓は丸洗いでできます。スポンジで洗った後、水洗いしてください。
水分を拭き取り、十分に乾燥させてください。

パッキン・底カバー(770のみ)

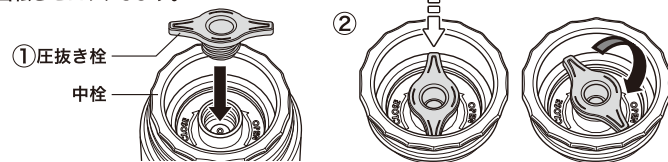
パッキン・底カバーを取りはずし、ぬるま湯で丸洗いし、乾いた布で水分を拭き取ってください。

△お手入れ上の注意

- ご使用後は、必ずきれいに洗ってください。
お手入れが不十分だと、におい、汚れ、パッキンの変色の原因となるおそれがあります。
- 圧抜き栓を中栓に取り付けたままお手入れしないでください。
お手入れの際はそれぞれ取りはずした状態で行ってください。
- 本体を洗った後は、すぐに水分をふき取ってください。
水滴の跡が残ったり、サビやものを汚す原因となります。
- シンナー、クレンザー、金属たわし、化学雑巾などは使用しないでください。
傷やサビ、破損の原因になります。
- 本体やふたキャップ・中栓の煮沸、および食器洗浄機や食器乾燥機などは使用しないでください。
変形や漏れの原因になります。
- 塩素系漂白剤は使用しないでください。
サビ、破損の原因になります。
- 本体・ふたキャップ・中栓の浸け置き洗いなどはしないでください。
- においが気になる場合は、ぬるま湯に食酢を加え、その中ですすぎ洗いをしてください。
- 長時間ご使用にならない場合は、汚れをきれいに洗い落とし完全に乾燥させてから清潔な場所で保管してください。

圧抜き栓の取り付け方

①圧抜き栓を中栓中央にはめ込みます。②奥までしっかり差し込み、図の矢印方向に回転させロックします。



パッキンの取り付け方

正しく取り付けられていないと、漏れの原因になります。
お手入れなどで、パッキンを取りはずした後は、正しく取り付けてください。

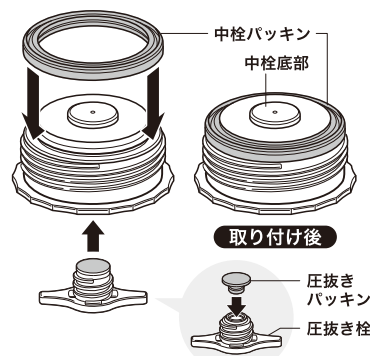
中栓パッキンの取り付け方

中栓底部の凹み部分に中栓パッキンを合わせてはめ込んでください。

圧抜きパッキンの取り付け方

圧抜き栓の溝がある方を上にして圧抜きパッキンを図のように奥までしっかり押し込んでください。

注意：パッキン位置、形状がことなことが御座います。
現物の確認をお願いします。パッキンが外にくい場合は先端がやわらかい棒(つまようじ等)を差し込んで外してください。パッキンが破損しないように注意してください。



各パッキンは消耗品です。

約1年間を目安にご確認いただき、作動がスムーズでなかったり、表面のザラつきや損傷がある場合は交換してください。消耗のある場合は、品番をお確かめのうえ、表示者までお問い合わせください。
<https://www.atlasonline.jp>



赤い斑点・ザラザラが付着した場合

ポットの内側にサビのような赤い斑点や、ザラザラしたものが付着した場合には...

サビのような赤い斑点ができた場合

水に含まれる鉄分などが付着したものです。食酢を10%程度入れたぬるま湯を本体に入れて、30分ほど放置したあと、柔らかいスポンジ・ブラシなどで、内びんの内壁をよく洗ってください。
食酢が残らないようにきれいな水でよくすすいでください。

ザラザラしたものが付着した場合

水に含まれるカルシウムが付着したものです。クエン酸を10%程度入れたぬるま湯を本体に入れて、ふたキャップ・中栓を取り付けず、3時間程放置したあとに柔らかいスポンジ・ブラシなどで、内びんの内壁をよく洗ってください。クエン酸が残らないようにきれいな水でよくすすいでください。

製品仕様

品番		ATFP-370	ATFP-570	ATFP-770
品名		ステンレスフードポット		
材 料 の 種 類	本 体	内びん/ステンレス鋼		
		銅 部 /ステンレス鋼 (アクリル樹脂塗装)		
	ふたキャップ	ポリプロピレン		
	圧 抜 き 栓	ポリプロピレン		
	パ ッ キ ン	シリコーンゴム		
底 カ バ ー		なし		シリコーンゴム
容 量		0.37L	0.57L	0.77L
保 温 効 力		65℃以上(6時間後)	73℃以上(6時間後)	77℃以上(6時間後)
保 冷 効 力		10℃以下(6時間後)	9℃以下(6時間後)	8℃以下(6時間後)

※保温効力とは室温20℃±2℃において製品に熱湯を中栓の下端まで入れ、縦置きにした状態で熱湯が95℃±1℃になったとき、ふたキャップ・中栓をして6時間放置した場合におけるその湯の温度です。

※保冷効力とは室温20℃±2℃において製品に冷水を中栓の下端まで入れ、縦置きにした状態で冷水が4℃±1℃になったとき、ふたキャップ・中栓をして6時間放置した場合におけるその水の温度です。

お問い合わせ

品質には万全を期しておりますが、万一不具合があった場合はご使用にならないで、お買い求めの販売店または下記お客様相談窓口までご連絡ください。

表示者 **株式会社アトラス**
〒192-0046
東京都八王子市明神町4-7-15 落合ビル2F

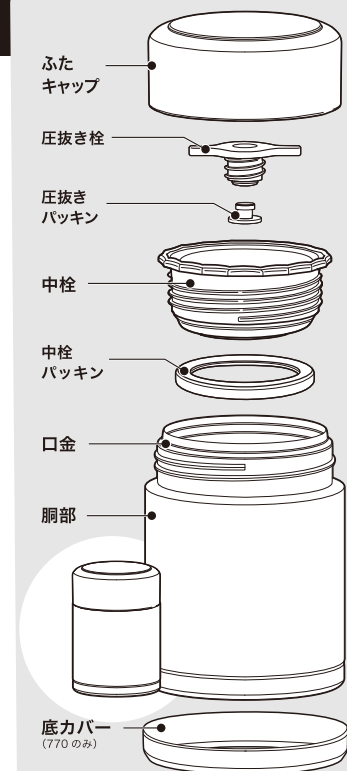
お客様
相談窓口

TEL. 042-660-8870
受付時間/9:00~18:00(金曜日
(祝日・弊社休業日を除く)
<https://www.atlas-scm.jp/>

TEMPEAK
超保温ステンレス
フードポット

Atlas

●各部のなまえ



取扱説明書

ATFPシリーズ

このたびは、当社のステンレスフードポットをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この説明書を最後まで必ずお読みいただき、正しく安全にご使用いただけますよう、お願いいたします。
また、本書は、万一ご使用中にわからなくなったときにお役に立ちますので、いつでもみられるところに大切に保管してください。

ご使用の前に

- はじめてご使用になる前に本体の傷・凹み、ふたキャップのひびわれなどの不具合がないことをご確認ください。
- 底面の製造ロットシールははがさないください。
- はじめてご使用になるときは、本体内側、ふたキャップ、中栓を食器用洗剤をつけたスポンジなどでよく洗ってください。
- 本体内部で使用する銅ボイルがこすれて、製品を振るとカシャカシャと音がすることがあります。保温(保冷)効果を高めるためのものであり製品の品質上問題は御座いません。

※説明中のイラストは実際のものと異なる場合があります。
また品質向上・改良のため、予告なく仕様・デザインなどを変更することがありますのでご了承ください。

△ ご使用上の注意

- **お子さまだけで使用させたり、乳幼児の手の届くところで使用しないでください。**
やけどの原因となります。
- 注 意** ● **飲食物の保温・保冷以外の目的では絶対に使用しないでください。**

● 熱い飲食物を入れた場合、次の点を必ずお守りください。

- 断熱効果により、熱い飲食物を入れても外側は熱くなりませんが、飲食物は熱いので注意してご使用ください。
- 傾けた状態、または顔を近づけた状態でふたキャップ・中栓を開けないでください。
内圧が上がり、飲食物が急激に出たり、飛散したりしてやけどの原因になり危険です。
- 直接飲む場合は、急に傾けたりせずにゆっくりと傾けながら飲んでください。また、スプーン等ですくいながら食べてください。急に傾けると、飲食物が勢いよく出てやけどなどの原因になり危険です。
- 絶対に振らないでください。飲食物が噴き出すことがあります。危険です。
- 熱い飲食物を入れた場合は、数十秒おいてから中栓をしてください。

● 熱い(冷たい)飲食物を入れてください。

飲食物は30～45度程度が最も腐敗しやすい温度です。

● 飲食物の量は、取扱説明書4ページ右下の図を参考にしてください。

入れすぎるとふたキャップ・中栓が開かなくなったり、閉めたときに飲食物が溢れ出す原因になります。また、使用中に漏れ、やけどやものを汚す原因になり危険です。

● 大きな氷を入れる場合は押し込まず小さく砕いて入れてください。

傷や溢れる原因となります。

● パッキンが正しく取り付けられていることを確認してご使用ください。

7ページの図を参考に正しく取り付けてください。飲食物が漏れ、やけどやものを汚す原因になり危険です。圧抜きパッキン、中栓パッキンの取りはずしの際は紛失及び未装着に注意してください。

● ふたキャップ・中栓を閉めるときは、本体を傾けたり揺らしたりしないでください。

飲食物が溢れ出す原因になります。また、漏れてやけどやものを汚す原因になり危険です。

● ふたキャップ・中栓が確実に閉まっていることを確認してください。

閉め方が不十分ですと、傾けた場合飲食物が漏れ、やけどやものを汚す原因になり危険です。

● ストープやコンロなど火気のそばに近づけないでください。

やけどや製品の変形や変色の原因になります。

● 電子レンジで加熱しないでください。

火花が飛び危険です。けがや事故、破損の原因になります。

● 冷凍庫には入れないでください。

● 本体の口金に熱いやかなどをあてないでください。

口金の変形・傷、転倒してやけどなどの原因となり危険です。

● 製品の構造上、湿度が高いときにふたキャップ・中栓に水滴がつく場合があります。ご注意ください。

● 飲食物を入れた状態で本体を逆さまにしないでください。

● 次のものは絶対に入れないでください。

- アルコール類
- ドライアイス・炭酸飲料
内圧が上がり、ふたキャップ・中栓が開かなくなったり、飲食物が噴き出したり、ふたキャップ・中栓が破損して飛散することがあり危険です。
- 腐敗しやすい生もの・乳製品など
成分の腐敗や変質の原因になります。そのまま長く放置した場合、腐敗などによりガスが発生して内圧が上がり、ふたキャップ・中栓が開かなくなったり、飲食物が噴き出したり、ふたキャップ・中栓が破損して飛散することがあり危険です。

● においの強いものを入れると、本体やパッキンににおいが残る場合がありますが、品質上問題はありません。

6ページの「お手入れ方法」に従って汚れやにおいを落とした後、十分に乾燥させてください。

● 飲食物を入れた状態で長く放置しないでください。

腐敗や発酵によりガスが発生して内圧が上がり、中栓が開きづらくなったり、噴き出し、けがやものを汚す原因になります。

● 飲食物を入れた状態で中栓が開かなくなった場合、製品を温めたりはしないでください。

内圧の上昇とともに中栓の剛性が弱くなり、中栓が噴き出したり飲食物がふき出るなど、けがやものを汚す原因になります。

● 飲食物はできるだけ早く、一度にお召し上がりください。

長時間保存すると飲食物の色や味が変わります。6時間以内を目安にしてください。

● 落としたり、ぶつかけたりして強い衝撃を与えないでください。

変形やわれ、保温・保冷不良の原因になります。またふたキャップ・中栓の破損原因になります。

● 改造・修理・分解は絶対にしないでください。

破損、事故の原因となり危険です。

● バッグなどに入れるときは、本体を縦に置いてください。

万一の漏れを防ぎます。

● パソコン・デジタルカメラなどの精密機器と一緒に持ち運ぶのは止めてください。

万一、内容物が漏れた場合、精密機器の破損の原因になるおそれがあります。

● 持ち運ぶ際、次の点を必ず守ってください。

持ち運ぶ際は、ふたキャップをきちんと閉め、本体を持ってください。

● 運転中は危険ですので使用しないでください。

車内や衣服を汚したり、やけどの原因となり危険です。

また、運転者の場合は運転への注意が散漫になり非常に危険です。

● 車中や屋外など、傾いたり転倒したりする可能性のある場所では絶対に使用しないでください。

● 車の中など高温になる場所には放置しないでください。

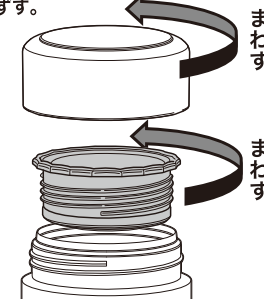
ご使用方法

ご使用の前に

- はじめてご使用になる際は、食器用洗剤でよく洗ってからご使用ください。
- 製品にガタつき、破損などはないか確認してからご使用ください。
不具合があった場合、修理・分解はせずにご使用をおやめください。
- 本体内部で使用する銅ボイルがこすれて、製品を振るとカシカシヤと音がすることがあります。保温(保冷)効果を高めるためのものであり製品の品質上問題は御座いません。

1 ふたキャップ・中栓をはずす

ふたキャップ・中栓を矢印の方向にまわしてはずす。



中栓が開きにくくなった場合

圧抜き栓をまわしてください。

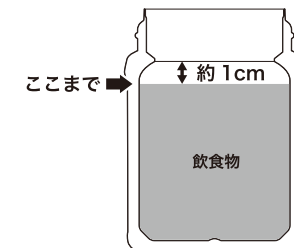
中の圧力が下がり、開けやすくなります。その後やけどに十分注意して必ず本体を立てた状態で布(タオル等)をあてて、ゆっくりと開けてください。



※ 熱い飲食物を入れた場合は、やけどに十分注意してください。直接飲む場合は、急に傾けたりせずにゆっくりと傾けながら飲んでください。また、スプーン等ですくいながら食べてください。

2 飲食物を入れる

飲食物の量は右図 ➡ 部までにしてください。入れすぎると、中栓を閉めた時に内容物があふれたり、中栓が開まらない場合があります。



本体に少量の熱湯・冷水を入れ、1分程度置きますと保温・保冷に効果的です。

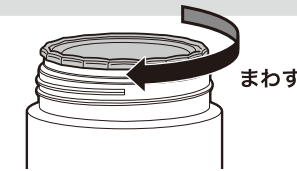
※ 熱い飲食物を入れた場合は、数十秒おいてから中栓をしてください。

3 中栓を閉める

中栓を矢印の方向にまわして閉める。

※ 中栓を閉める際はパッキンが正しく取り付けられていることを確認してください。

※ 中栓を閉める際、噛み合わせがゆるいと本体との間に隙間ができます。隙間がないようにしっかりと噛み合わせて閉めてください。

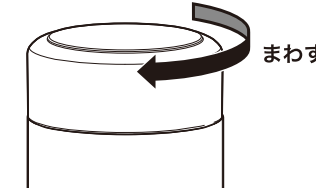


4 ふたキャップを閉める

ふたキャップを矢印の方向にまわして閉める。

※ ふたキャップ・中栓を開け閉めするときは、本体を立てた状態でおこなってください。絶対に傾けたり揺らしたりしないでください。飲食物が溢れたり、漏れたりするおそれがあります。

※ 熱い飲食物を入れた場合は、噴き出すことがあります。絶対に振らないでください。



中栓の分解方法

① 圧抜き栓を矢印の方向へまわし、上に引き抜きます。

② 圧抜き栓、中栓からパッキンをはずします。

